

G&T社長・竹内宏の  
磨き作業が楽しくなる!  
**失敗しない  
磨き術**  
—試行錯誤の磨き体験記より—

竹内宏 (たけうちひろし)

ジーアンドティー代表取締役。1961年生まれ。1980年にマツダオート大阪へ入社し、1984年に独立し保険代理店兼中古車販売業を営む傍ら、カーディテーリングに触れる。1987年に廃業し、テロソンコーポレーションのグループ会社にカーディテーリングの本部社員として入社。大手カー用品店にコーティングビジネスを提案し、自らも実験店で現場作業に従事する。その後自動車補修用品の営業経験を積み、2003年に再び独立してジーアンドティーを設立。サンマイツ社サンドベーバーの東日本代理店として磨き関連商品を販売しながら、講習会を積極的に開催するなどアフターケアを重視した営業手法を展開している。



## [最終回] 失敗しない磨き術

### まずは最終形をしっかりとイメージし、作業を始める前に工程を決める

約2年間にわたり連載してきました、この「失敗しない磨き術」も、今回が最終回になります。今回はこれまでお話しした内容について、重要なポイントを整理していきます。

当連載では「磨き作業が楽しくなる」をテーマに話を進めてきましたが、

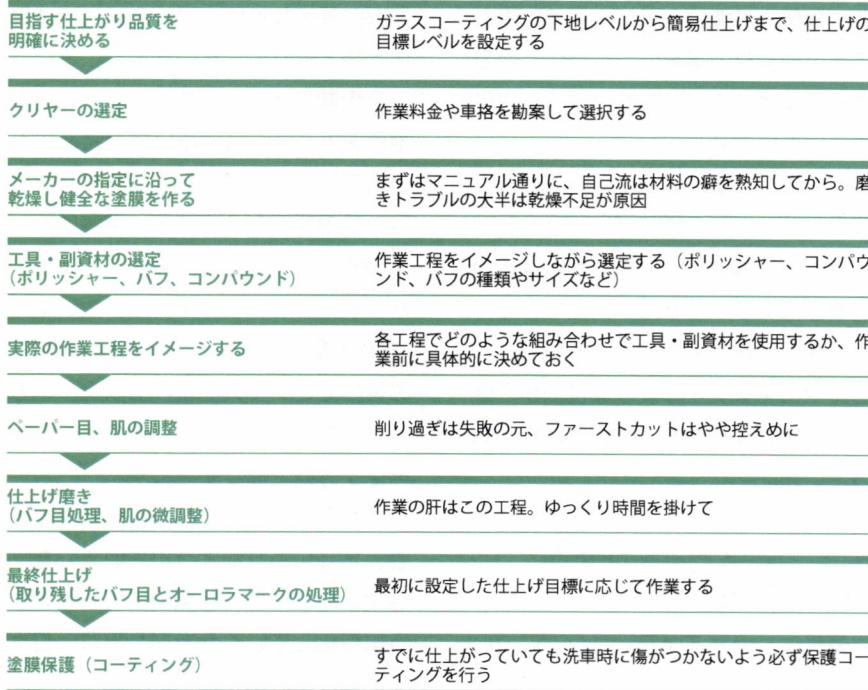
逆に「磨きが楽しくない」状態を考えてみましょう。磨くとツヤが出てきれないになりますから、掃除するとスッキリするように、仕上がるにつれて楽しさを味わえるはずです。

しかし、毎日繰り返すと、飽きがきて作業に疲れを感じてしまいます。さらに、失敗したり上手く作業が進行しない時は、仕上げる楽しさもなくなります。このような状態にならないために、どうすれば良いのでしょうか……。

私が心掛けているのは、最終形をしっかりとイメージし、作業を始める前に工程を決めることです。カーナビにたとえれば、目的地をインプットして経路を決め、走行中に徐々に目的地へ近付くことを確認しながら運転すると、長距離ドライブの疲れも半減します。ナビゲーションをセットせずにその都度経路を考えながら移動すると、運転に集中できず、周りの景色を見る余裕も半減します。

工程を決めたら、次に基本的な方針を決めます。最も肝心なことは、早く作業することではなく、安全に作業することです。先程の運転にたとえると、数十分早く目的地に着くためにスピードを上げるのではなく、渋滞や道順の間違いがなく予定通りに着くことを目標にすることです。慣れてくれれば、無理なくスピードが出せるようになり、経路の選択の間違いも減り、いつも予定通りに目的地に到達できるはずです。

### 【図1】磨き作業の流れ



### 安全に磨く上で必要な4つのポイントとは?

磨きにおいて、安全に作業するためには必要なポイントは次の通りです。

#### 1. 削り過ぎないこと

たとえペーパー目が残っていても、クリヤーの厚みが充分ならばいくらで

もりカバーできます。素早くペーパー一目を消せても、削り過ぎてクリヤーが薄くなれば、バフ目が消えずリカバリの手段も限られてきます。

### 2. 製品の仕様を熟知すること

メーカーの指定通りに作業することにより、安定した塗膜を作ることができます。もちろん経験上、独自の作業のほうが良い場合もあるでしょうが、最初から自己流では、塗膜の性能が安定しません。

### 3. 乾燥状態を把握すること

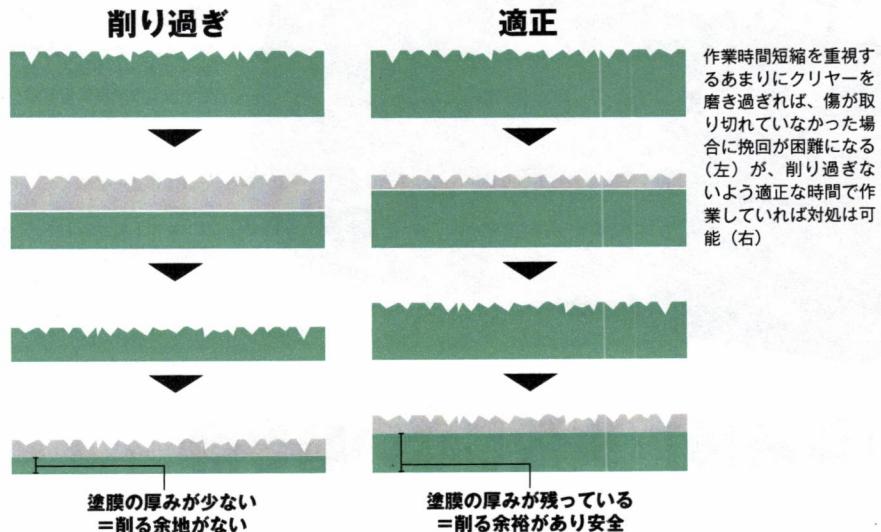
乾燥時間は、メーカーの指定よりやや長目に設定することが重要です。メーカーが言うところの指定時間は研磨が「可能」だと言う意味ですので「最適」な時間ではありません。

私の経験上ですが、指定時間ですぐ磨くと表面はともかく、内部はやや乾燥不足な感じがします。5~10分を急ぐことにより、磨き作業でそれ以上に時間が掛かってしまうこともありますので、乾燥は余裕を持って行う必要があります。

また、工場の事情でどうしても充分な時間が取れない場合は、乾燥不足を自覚して作業することです。具体的に言いますと、ペーパーを当てる力を弱めて深く傷が入らないように配慮したり、ウールバフで角を立てないようにしたりすることです。充分な状態ではない場合でも、自覚していれば失敗は未然に防げます。

### 4. 良く考えた上で機材、副資材を選択すること

ポリッシャーやコンパウンド、バフについてこれまで詳しく話してきましたので、それらを参考にしながら選択してください。その上で作業工程を組み立てていくと、より安全で確実な仕上がりが約束されます。ドライブにた



とえれば、目的地や経路に合わせた車種及びタイヤを選択することに当たはまるでしょうか。

以上が安全に作業するために必要なポイントです。これに付け加えるとすれば、日常のお話ですが、常に考えて試し、最善を見つけることを心掛けることです。私たちメーカーも、机上だけで製品を開発することはできません。試行錯誤の結果、今考えられる最善を提案できるわけです。工場によって、塗料の種類や作業環境が違うのですから、皆様の工場にとっての最善工程と工具・副資材の選択は、皆様にしかできないはずです。私たちは情報を提供するに過ぎません。

もちろん、私が作業する時は私自身が自分にとっての最善を見つけるわけですが、皆様にとっての最善になるかどうかは分かりません。ただし、様々な現場の情報を入手している私たちは、ゴルフのキャディのような役割ができます。それが私たちの位置付けだと思っています。

### ボデーショップにはまだ大いに可能性が残っている

最後に、カーディテーリングについて触れておきたいと思います。

私は元々、钣金塗装ではなくカーディテーリングが専門でした。しかしながら、お客様からの修理の依頼が多く、自分では直せないため、近所のボデーショップに紹介して利益を得ていました。この時に思ったのが、「自分で直せればもっと儲かるのでは」です。しかし、営業畠出身の私からすると、磨きは何とかなっても钣金塗装は難しそうで、任せるしかありませんでした。

今はボデーショップが主なお客様ですから、逆の目で見ると、钣金塗装ができる、おまけにカーディテーリングも収益源になれば、当時の感覚では鬼に金棒と思ってしまいます。

今後業界は、人口や車両保有台数の推移を考えると、明るい話が考えにくい状況にあります。しかしながら、当時の私の状態からすると、車両に関してのあらゆる要望を収益源にできるのがボデーショップであって、大いに可能性が残っていると思います。私もこの業界でビジネスを続ける以上、ネガティブな見方ではなく、その可能性を伸ばす方向で取り組みます。

それでは、長い間お付き合いいただき、本当にありがとうございました。今後とも、未来の皆様の工場がどのように変化していくかを楽しみに、日々製品開発に努めます。